

平成28年度東京都障害者虐待防止・権利擁護研修
障害者福祉施設等 共通講義

障害者虐待防止法の理解と 虐待事案について

平成28年12月15日
弁護士 関哉直人

法律の概要

- 2011年6月17日成立
- 2012年10月1日施行
- 「家庭」「施設」「職場」が直接の対象
- 通報義務
- 養護者支援

目的(趣旨)

障害者に対する虐待が障害者の尊厳を害するものであり、障害者の自立及び社会参加にとって障害者に対する虐待を防止することが極めて重大であること等に鑑み、障害者に対する虐待の禁止、国等の責務、障害者虐待を受けた障害者に対する保護及び自立の支援のための措置、養護者に対する支援のための措置等を定めることにより、障害者虐待の防止、養護者に対する支援等に対する施策を促進し、もって障害者の権利利益の擁護に資することを目的とする。

障害者虐待の内容

- ① 身体的虐待
- ② 性的虐待
- ③ 心理的虐待
- ④ ネグレクト
- ⑤ 経済的虐待

施設従事者等による虐待

- 一 障害者の身体に外傷が生じ、若しくは生じるおそれのある暴行を加え、又は正当な理由なく障害者の身体を拘束すること
- 二 障害者にわいせつな行為をすること又は障害者をしてわいせつな行為をさせること
- 三 障害者に対する著しい暴言、著しく拒絶的な対応又は不当な差別的言動その他の障害者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと
- 四 障害者を衰弱させるような著しい減食又は長時間の放置、当該障害者福祉施設に入所し、その他当該障害者福祉施設を利用する他の障害者又は当該障害福祉サービス事業等に係るサービスの提供を受ける他の障害者による前三号に掲げる行為と同様の行為の放置その他の障害者を養護すべき職務上の義務を怠ること
- 五 障害者の財産を不当に処分することその他障害者から不当に財産上の利益を得ること

身体拘束の例

- ① 車いすやベッドなどに縛り付ける
- ② 手指の機能を制限するためにミトン型の手袋を付ける
- ③ 行動を制限するために介護衣(つなぎ服)を着せる
- ④ 支援者が自分の身体で利用者を押さえつけて行動を制限する
- ⑤ 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる
- ⑥ 自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する

身体拘束の実体要件と手続要件

実体要件

- ① 切迫性
- ② 非代替性
- ③ 一時性

手続要件

- ① 組織による決定と個別支援計画への記載
- ② 本人・家族への十分な説明
- ③ 必要な事項の記録

早期発見義務

障害者福祉施設、学校、医療機関、保健所その他障害者の福祉に業務上関係のある団体並びに障害者福祉施設従事者等、学校の教職員、医師、歯科医師、保健師、弁護士その他障害者の福祉に職務上関係のある者及び使用者は、障害者虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、障害者虐待の早期発見に努めなければならない。

通報義務

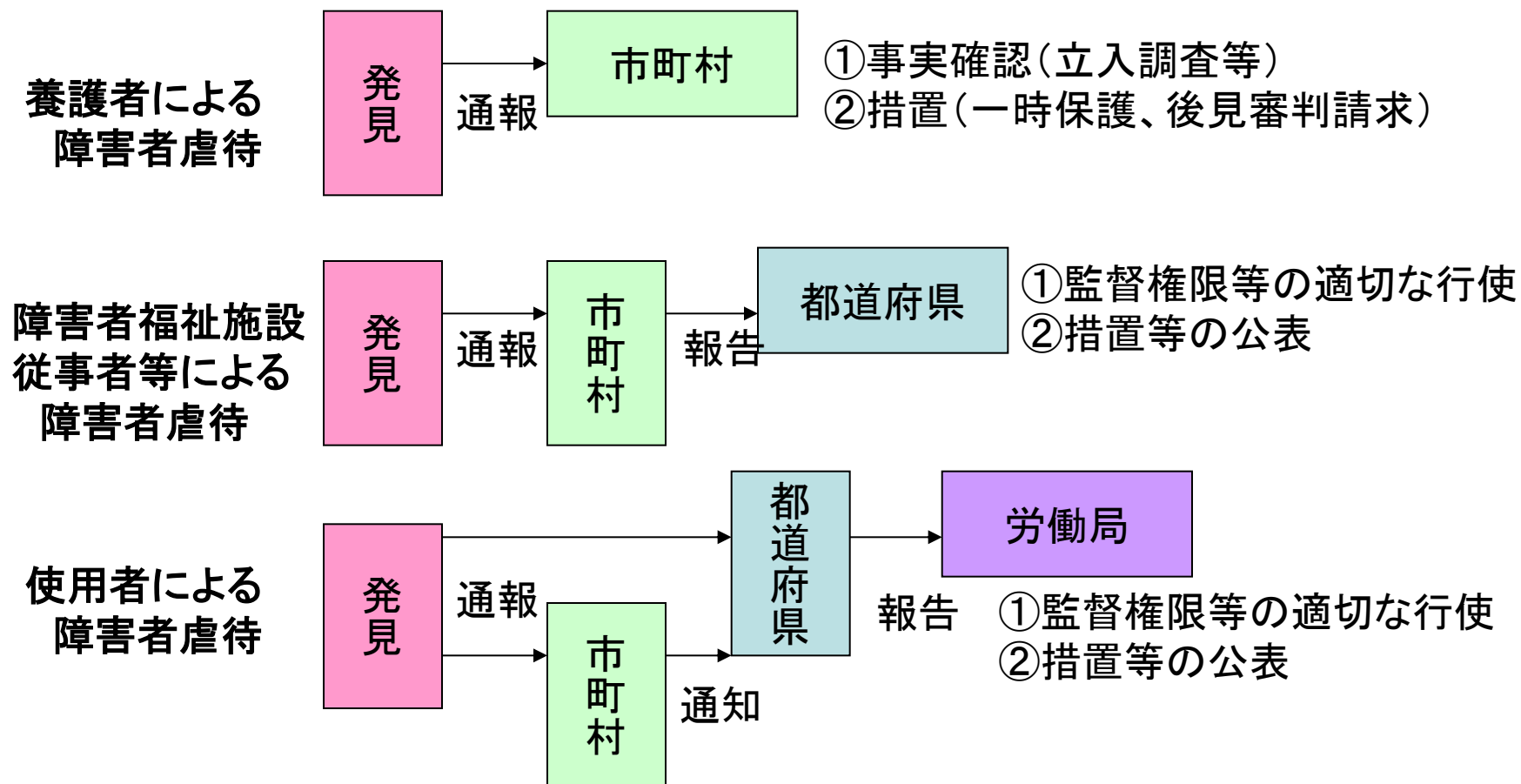
障害者福祉施設従事者等による障害者虐待を受けたと思われる障害者を発見した者は、速やかに、これを市町村に通報しなければならない。

※ 障害者福祉施設従事者等は、通報をしたことを理由として、解雇その他不利益な取扱いを受けない。

通報義務をめぐる動き

- さいたま市で通報した元職員が損害賠償を請求される
 - ← 虐待認定、改善勧告を受けた事例
- 鹿児島市で通報した元職員が名誉毀損を理由に裁判提起される
 - ← 担当者は「男性がうそをついているとは考えていない。虐待防止法の趣旨からすると提訴はあるべきことではない」
 - 反訴提起

通報後のスキーム



窓口として「市町村障害者虐待防止センター」「都道府県障害者権利擁護センター」を設置

事例を通じて考える

袖ヶ浦・養育園事件を通じて考える＜別資料参照＞

虐待防止のポイント

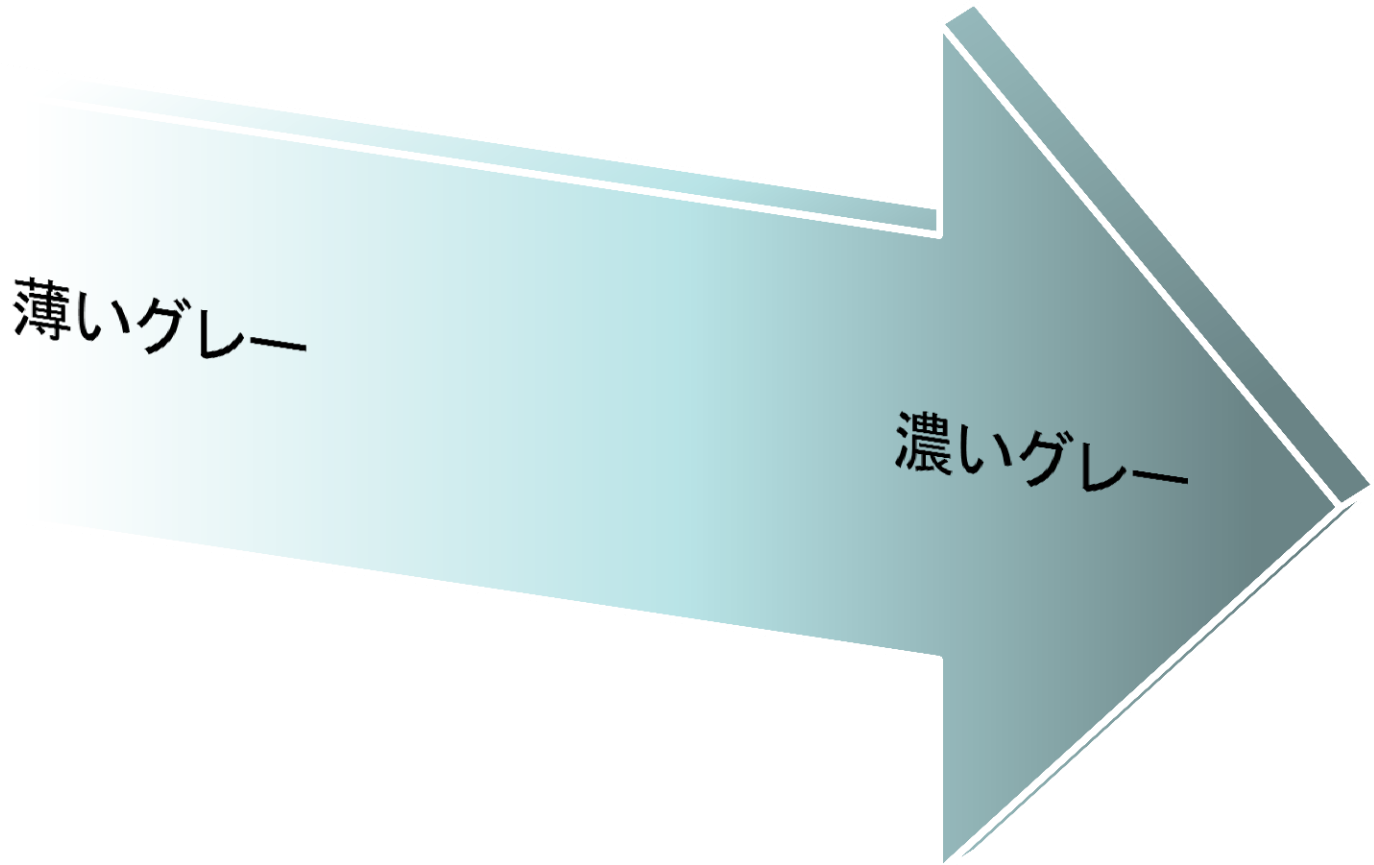
虐待の共通の構図

- ① 虐待は密室の環境下で行われる
 - ② 障害者の権利を侵害する小さな出来事から心身に傷を負わせる行為にまで次第にエスカレートしていく
 - ③ 職員に行動障害などに対する専門的な知識や技術がない場合に起こりやすい
- (障害保健福祉部長通知(平成17年10月20日)「障害者(児)施設における虐待の防止について」)

「小さな出来事」とはなにか

薄いグレー

濃いグレー



常にここに戻る

障害者に対する虐待が障害者の尊厳を害するものであり、障害者の自立及び社会参加にとって障害者に対する虐待を防止することが極めて重大であること等に鑑み、障害者に対する虐待の禁止、国等の責務、障害者虐待を受けた障害者に対する保護及び自立の支援のための措置、養護者に対する支援のための措置等を定めることにより、障害者虐待の防止、養護者に対する支援等に対する施策を促進し、もって障害者の権利利益の擁護に資することを目的とする。

小さな出来事①

Aさん(男性・40歳)は、家族からも支援者からも「ひろちゃん」と呼ばれています。

一方で上司からは、「ちゃんづけはだめ。さんづけで呼んでください」と言われています。

小さな出来事②

トイレ指導をしています、いつも漏らしてしまう利用者に対し、「どうしていつも漏らすの？い
いかげんにして」とつい怒ってしまいます。

小さな出来事③

他の方の支援中に、Bさんから「昨日いやなことがあった」と話しかけられました。

「他の人の支援中だから。ちょっとまってて」といったまま、1日が過ぎてしまいました。

小さな出来事④

廊下でも裸になってしまう方がいます。服を着なさいと言っても言うことをきかないので、最近では「風邪ひきますよ」と声をかけるだけです。

小さな出来事⑤

ごはんを食べる時間を過ぎているのに食べている方に、「もう時間ですよ。いらないなら下げますよ」と言ってしまったたり、食事介助のスピードを上げてしまいます。

小さな出来事⑥

Cさんは、突然暴れることがあります。そのため通院付添の際、Cさんの両側から職員が抑えて車の後部座席に座るという対応をしています。

移動のときには、職員がCさんの手首をつかんで移動していました。他の若い職員が「どうして手首をもつのですか？」と聞いたところ、その職員は「普通に手をつないでいたら簡単にはなされちゃうでしょ」と言っていました。

小さな出来事⑦

Dさんは、買い食いが大好きです。いつもではないのですが、時々、通所の帰り道にあるコンビニで、唐揚げをたくさん食べて帰ってきます。通所先への交通費の代わりにSuicaを渡していたのですが、残高がいつきに減っていることが分かり、事情を聞いたら買い食いが発覚したということが2、3度ありました。

唐揚げの買い食いには3つの問題があると考えています。

小さな出来事⑦

- ①施設の食事で体重管理をしているのに、買い食いにより少し太ってきていること。
 - ②交通費としてSuicaの形で渡しているのに、別の用途で使っていること。
 - ③Dさんは軽症の糖尿病で服薬もしており、唐揚げは数値を悪くするので避けるべきであること。
- これらをDさんに伝え、交通費を現金で毎日渡すことにしました。しばらくして、Dさんは時に徒歩で帰ってくるなどして交通費を少しずつ貯め、買い食いを続けていることが分かりました。

小さな出来事⑧

Eさんは最近不安定で、ほぼつきっきりで支援をしなければいけません。

そのことで他の人の支援が十分にできていません。

心理的虐待から考える

障害者に対する著しい暴言、著しく拒絶的な対応又は不当な差別的言動その他の障害者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと

⇒ 「差別的言動」

「心理的外傷を与える言動」

ネグレクトから考える

障害者を衰弱させるような著しい減食又は長時間の放置、当該障害者福祉施設に入所し、その他当該障害者福祉施設を利用する他の障害者又は当該障害福祉サービス事業等に係るサービスの提供を受ける他の障害者による前三号に掲げる行為と同様の行為の放置その他の障害者を養護すべき職務上の義務を怠ること

⇒ 「職務上の義務を怠る」

いちばん大切なこと

小さな出来事を捉えられる「ハート」

⇒個々の職員が、「ハート」を持てているか
現場の職員は、「ハート」を共有できているか

ハートが共有されない原因・背景

- 過去の支援方法の経験
- 他の現場での支援を知らない
- 実践できるリーダーがいない
- 支援枠組みや支援者側の都合が優先されてしまう日常がある
- 本人の意思や気持ちを中心に支援がなされていない
- いい支援、権利擁護の意識が評価されない

ハートを共有するには

- 職員とよく話す
- その職員に「権利擁護の取組み」に参加してもらう
- 他の現場を見る機会を作る（外部研修、交換研修、他施設の視察等）
- 現場に権利擁護を実践できる人を置く
- 「権利擁護リーダー」を任命する
- 今週の権利擁護を発表してもらう
- 現場全体で「本人中心」を意識する
- 支援の枠組みを見直す

もう一つ大切なこと

「風通しのよい」職場づくり

⇒ GWにて

まとめ

虐待の防止とは

- よりよい支援につなげるためのキーワード
- 支援者都合ではなく、あらためて本人の目線に立つためのきっかけ
- 「小さな出来事」を考えることは、権利擁護を考えること
 - ⇒ とっても「すてき」なことなんだという意識の共有